

道内初 定置式水平ジブクレーン 試行導入

旭川開建「天塩川改修美深パンケ樋管改築ほか」

生産性向上に期待大 宮坂建設 資機材搬入等で活用

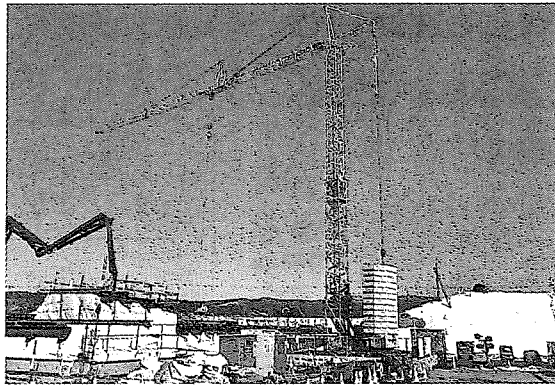
【旭川発】そのクレーンは、日本の建設現場の未来を変える存在となるか。旭川開建発注の「天塩川改修美深パンケ樋管改築ほか」で、定置式水平ジブクレーンが道内で初めて試行導入されている。施工する宮坂建設工業(株)(帯広、宮坂寿文社長)は、安全に万全を期した仮設計画のもと、資機材搬入や樋門コ

ンクリート養生における上屋閉閉などに活用。現場ではクレーン手配の手間が削減されるほか、無線操作機によって吊り荷を近傍で確認しながら操作できる利便性を評価する声も多い。各工程が円滑に進むことで、生産性の向上につながるものと期待が寄せられている。

国土交通省は、2021年度の主な取組として、定置式水平ジブクレーン等を活用した現場内の省力化を推進。「大量の重い・長い物を運ぶ」作業の効率化や負担軽減による生産性の向上を目指し、開発局および九州地整が所管する工事各1件で同クレーンを試行している。

道内では、旭川開建発注の「天塩川改修美深パンケ樋管改築ほか」を対象に、吊り最大径36尺、先端最大

資機材の運搬など各種作業において効率化が図られている



無線操作盤を使い目視で確認しながら吊り上げを行う作業員

11月10日の設置後、3日間の使用訓練を経て15日から活用開始。内空縦1・8尺、横1尺延長44尺一連の樋門を整備するに当たって、足場・鉄筋・型枠の資

材運搬をメインに、コンクリート防寒養生時の上屋閉閉や機材搬入での活用を図っている。施工者の宮坂建設工業の作業員は、「現場にクレーンが常設されており、いつでもクレーンが使える安心感がある」と話す。作業のたびにクレーンを手配する手間が省け、回送に要する待機時間やコストも削減できたためだ。

「現場にクレーンが常設されており、いつでもクレーンが使える安心感がある」と話す。作業のたびにクレーンを手配する手間が省け、回送に要する待機時間やコストも削減できたためだ。

次的なメリットを指摘する声もある。

仕事を担当する名寄河川事務所では、「各作業がスムーズに進み、施工時間短縮が図られている」と手ごたえを実感。人力を伴っていた小運搬にも、安定して利用することができ、安全面でも寄与しているという。

定置式水平ジブクレーンのような固定式クレーンの有資格者や、点検業者の少なさは課題として残るものの、今後の試行によっては「河川工事でも樋門・水門の整備といった固定型工事などを中心に活用する場が広がるのでは」(名寄河川事務所)。

移動式クレーンと定置式水平ジブクレーン双方のメリットを踏まえ、適切に使い分けることがスタンダードとなる日はそう遠くないかもしれない。